Library

第 52 号
編集・発行
信州大学附属図書館
繊維学部分館
平成17年1月17日

CONTENTS

針塚賞と毘沙門堂　機能高分子学科　太田　和親　(2)

学生用図書の紹介　(5)

分館通信　告知板　(8)

分館日誌　(9)

編集後記　(9)

《付録》2005年外国雑誌購入予定リスト

Library（電子版）はインターネットでも提供しています。
URLは http://www-lib.shinshu-u.ac.jp/seni/online.html です。

針塚賞と毘沙門堂

機能高分子学科　太田和親

皆様既に御存知の様に、信州大学繊維学部では2004年3月の卒業式から、各学科1名、学業人物共に最も優秀なる卒業生を、顕彰するために「針塚賞」[1)]を授与することとなりました。この賞の由来は、繊維学部の学祖、つまり上田蚕糸専門学校の初代校長の針塚長太郎先生に因んでいます。

針塚先生は大変に立派な方で、当時の勅任官、つまり天皇陛下の勅令により赴任した校長先生であった様です。そのため、従三位を、後に正三位を、国から授けられています。昔、私の高校の化学の先生は、戦前の広島高等師範学校卒で、勅任官だと言われていました。戦後生まれの私達にはよく解らなかったので、同僚の老先生に説明して頂いたところ、勅任官というのは、天皇陛下の御命令（＝勅令）により、任官するもので、この場合任官と同時に、従五位とかの身分も与えられるのだと言うことでした。従って、勅任官というのはエリートというのと同義語であったと言うことでした。これは、奈良時代や平安時代から続く国家公務員のキャリア組を処遇する制度だったのだそうです。確か、今もこの制度は生きていると思います。昨年イラクで亡くなった奥大使も、殉職に報いて、はっきりとは覚えていないのですが、従四位とか何かを与えられたはずです。

このように針塚先生は勅任官で大変立派な方でした。同時に大変教養のある方で、書は誠に達筆でした。大教養人は達筆であるというのが、日本語のワープロが出来るまでの2000年間近く、万人の認める基準でした。先日、繊維学部分館報 Library49 号 <http://www-lib.shinshu-u.ac.jp/seni/online/no49/1.html> に書かせて頂いたように、針塚先生の揮毫の書は繊維学部キャンパス内に、私の知るところ、2つ残っており、1つは農場の建物脇にある石碑「蚕霊供養塔」、もう一つは旧千曲会館の一階日本間にある掛軸「啄徒啄師（たくとたくし）」です。どちらも、実に流麗達筆で、大変感心します。

最近、日頃の運動不足を解消するために、私は休日テーマを決めて市内を長時間散歩しています。車に乗らず自身の足で、市内を歩き回ると、本当に色んなことを発見します。先ず、一ヶ月くらいは水辺を歩くのをテーマにして歩き回りました。市内の常田池や矢出沢川に、冬、沢山の鴨が飛来して越冬していることや、美しく歴史を感じさせる矢出沢川には、何と鴨ばかりか、大きな錦鯉も泳いでいることなど、今まで20年以上も上田に住んでいて全く知らなかったことなどがわかり、大変散歩が楽しいものとなっています。先日は、市内の神社仏閣をテーマに歩き回りました。

そこで、針塚先生の書を3つ、上田市内で偶然発見して大変驚きました。繊維学部のキャンパスの外でも3カ所、針塚先生の書が残っているのです。1つは、国分の上沢公会堂前の

公徳碑の題字と本文です。本文横に「昭和十六年四月　正三位勲一等針塚長太郎撰並書」と明記されているのでわかります。もう一つは、シナノケンシの社屋が丁度見下ろせる丘の上に建つ愛宕神社、その中にある石碑です。昭和九年の愛宕神社改築記念碑の「記念碑」という大きな書が針塚先生の手になるものです。この書の横にも「従三位勲二等針塚長太郎敬書」と明記されています。さらにもう一つは、常田地区にある毘沙門堂の入口に建つ石柱2本のうちの1本です。右の石柱がそうで、「指定保存史跡　毘沙門堂阯　長野縣」という書です。石柱側面に昭和六年五月に建てられたとありました。その反対側の石柱側面には「従三位勲二等針塚長太郎書」とやはり明記されているので判りました。

ところで、この毘沙門堂は、私は今まで知らなかったのですが、「信州の松下村塾」[2)]と言ってもいい、日本の歴史上、大変重要な所だったようです。何故か余りにも知られていないのが残念に思う程でした。幕末に活文禅師という大学者のお坊さんが、ここで私塾「多聞庵」を開き千余人もの弟子を教えました。その中に幕末活躍した偉人佐久間象山（ 松代藩士．後に吉田松陰や勝海舟を教え，攘夷派に暗殺される．）や、英国式兵学者の赤松小三郎（ 上田藩士．京都で薩摩藩士に暗殺される．詳しくは分館報 51 号⇒ <http://www-lib.shinshu-u.ac.jp/seni/online/no51/1.1.html> ）らが、この活文禅師の高い学識を慕って集まり、勉学に精励したというのです。活文禅師は長崎や江戸で学び、和漢蘭の三つの学問に通暁していたようです。そして、伝えられるところによると、活文禅師は、日本の詩文ばかりか中国語もぺらぺらで、さらに蘭学による天文数学も出来て、一弦琴も弾いて教えたし、彫刻も一流で、これら全部をたった一人で教えたのだというのです。レオナルド・ダ・ビンチみたいな人ですね。そして、弟子の佐久間象山とは深い師弟愛で結ばれていたそうです。碑文によれば、佐久間象山がさらに江戸に出て学問を究めることにしたとき、出発前にこの私塾を訪ね、一夕恩師の活文禅師と共に詩歌を詠み、また大いに語り合ったそうです。そんな有名な人を教育した大学者がこんなひなびた所にいたのかと思うと、大変感動しました。もっと日本国中に有名になってもいい史跡と思いました。さかのぼると、吉田松陰→佐久間象山→活文禅師という流れが見えてきます。つまり、松下村塾をたどると、この信州上田の毘沙門堂が源になるのです。皆さん、ここが日本国中にもっと有名になっていいと思いませんか？

この活文禅師が亡くなって、八十年ほど過ぎた昭和の初期、常田地区の方々が、禅師が大教育者であったことを顕彰するために、ここに碑を建てました。そして入口には史跡であることを示す、石柱があり、この文字を、後世の大教育者であった針塚先生に頼んで、書いてもらったらしいのです。針塚先生が如何に当時の市民からも敬愛されていたかを示す出来事ではないかと、私は1人、毘沙門堂の前で思いました。

なお、境内には、二つの碑、「鳳山禅師追福之碑」と「龍洞鳳山禅師碑文」があります。2つとも昭和3年に常田地区の有志の方々の募金で建てられています。追福之碑は、漢文書下し文の名文で、読んでみると、大教育者の人格を彷彿とさせ、大変感動します。また、禅師碑文には、何と佐久間象山の直筆の篆額（篆字による表題）が揮毫されています。こんな

所に幕末の偉人の直筆があるなんて、何で今まで知らなかったのだろうと、悔やむほど感激します。針塚先生も、きっと二人の偉人の学識に感激して入口の石柱の書を引き受けられたのではと思いました。

「針塚賞」[1)]が信州大学繊維学部に2004年3月から復活されたのを機に、以上のことを皆様にも是非知って頂きたく筆を執りました。毘沙門堂は信州大学繊維学部からも近くです。教職員の皆様、あるいは学生大学院生の諸君、是非、訪ねてみてください。　　（終）

【補足】

1）　「針塚賞」は、戦前、上田蚕糸専門学校の全学科卒業生の中で最優秀の者1名を表彰する制度として、かつて行われていたそうです。昔は、恩賜の金時計だったらしいです。しかし、最近までそのような表彰制度があったことさえほとんどの教職員が知りませんでした。2～3年前からこの表彰制度が議論されてきて、最終的に名称が「針塚賞」となりました。議論の過程で昔のことを知っていた人は皆無でした。それで本当に全くの偶然で同じ名称が付けられました。これは、初代校長針塚長太郎先生が非常に偉かったというのを、多くの人が知っていたからでしょう。針塚先生の御遺族の方にこの賞の復活のことを学部長がお話ししたところ、大変喜ばれたとのことでした（2004年3月2日八森学部長談）。また、学内メインストリート中央脇の針塚先生の銅像と名盤が、ここ数年間台座から外されていましたが、2005年3月の卒業式までには間に合わせて復元されることが、2004年3月の教官会議で決まりました。そして、2004年9月に復元されました。今度の卒業式には、「針塚賞」を受賞した卒業生は、ここで記念写真が撮れることでしょう。また、OBの方々には大変なつかしい像として昔のキャンパスをしのぶポイントとなることでしょう。

2）　毘沙門堂入口脇に、戦後の上田市教育委員会による、史跡指定の説明文が建っていますが、文中にここを単なる「寺子屋」としているところが、大いに誤解を招いているのではないかと思います。佐久間象山や赤松小三郎等を輩出しているほどの、学識を授けた場所を、単なる「寺子屋」では誤解されて当然ではないでしょうか。「寺子屋」を少なくともやめて「私塾多聞庵」と表記するべきだと思います。「鳳山禅師追福之碑」には、「常田ノ毘沙門堂ハ即チ先賢問道處ト称スヘキナリ」とあり、和学漢学蘭学を教えた「松下村塾」のような私塾で「先賢問道處」あるいは「信州の松下村塾」と、説明文を訂正すべきではないかと思いますが、皆さん如何でしょうか？

2004年2月15日随筆
2004年2月17日加筆修正
2004年3月1-2日加筆修正
2004年6月13日加筆修正
2004年9月11-13日加筆修正
2004年11月15日加筆修正

学生用図書の紹介

今年も各学科の先生方が学生さんに読んで欲しい本を推薦してくださいました。専門分野の図書から歴史小説、ハウツー本などいろいろなものがあります。今回の Library では、受入担当者が７冊をピックアップし、一読者としてご紹介いたします。他にもどんな本が推薦されているのか、ぜひ図書館でご覧ください。開架室に入ってすぐの学生用図書コーナーに展示しています。本を読んでくださった皆さんの感想も聞けたら嬉しいです。

-＊-＊-＊-

「生命のバカ力：人の遺伝子は 97%眠っている」　　村上和雄　著

（推薦）　繊維システム工学科　（請求記号）460.4:Mu43

天才アインシュタインと凡人の私では、遺伝子で見る限りほとんど違いがないのだそうです。信じがたい気持ちですが、天才との違いは良い遺伝子を ON に、悪い遺伝子を OFF にできるかどうかということのみのようです。良い遺伝子を目覚めさせることができれば無限に近い力が私たちの中に眠っている。何だかワクワクするような話です。科学には論理的な面だけではなく、感性や直感など精神的な面がとても重要な役割を果たしているのだそうです。世界的な遺伝子工学の研究者である著者が、ご自身の体験をまじえて書いています。研究業績をあげるためのキーワードは、遺伝子の ON・OFF です！！

「セブンイレブン流心理学」　国友隆一　著

（推薦）　感性工学科　（請求記号）673.8:Ku46

どうすれば物が売れるのか？そのキーは「消費者の心理」にあると説いています。この本では、業界売上ナンバー１のセブンイレブンがどのような戦略をとっているのかが徹底検証されています。商品の陳列ひとつで買いたくなる心理、接客でベタベタされたくはないが無視されたくない心理、欠品や接客で一度がっかりすると当分行きたくなくなってしまう心理、セブンイレブンはこのようなお客の心理をすばやくキャッチし、それを商品展開やサービスにつなげて成功しているといいます。これからチャンスをつかみたいという人には特に役立つ本だと思います。自分が無意識に持つ欲求に気がつくという意味でも面白い本です。

自分をふり返って、仕事場である図書館でも「利用者の心理」をキャッチしてもっといろいろな工夫ができるのではないかと強く感じました。

「ナルホドと読み手を納得させる論理的な作文・小論文を書く方法」小野田博一　著
（推薦）　機能高分子学科　（請求記号）816.5:O67

良い文章には、読み手に何かを伝えるための説得力＝パワーがなくてはならない・・・。分かったつもりでも、実際書いてみるとなかなか難しいのが文章ですよね？しかし著者は、論文を書くのは簡単です！と言い切っています。論理的に、とはどういうことなのか、また分かりやすく書くためのコツとして、サンプル文例を用いて解説しています。良い文章については「洗練されている」、「パワーが伝わる」と褒め、悪い文章については「ダサい」、「大ボケな結末だ」と容赦なく否定しているところが素晴らしいです。

作文・小論文が簡単に書ける！？と聞いて飛びつきたくなるような気持ちになったアナタ。ぜひ読んでみてくださいね。同じシリーズで「論理的に話す・考える・説得する・・・方法」を購入しています。こちらもお薦めです。

「アット・ザ・ヘルム：自分のラボを持つ日のために」 Kathy Barker 著
（推薦）　応用生物科学科　（請求記号）460.7:B21

“ アット・ザ・ヘルム(at the helm) ” とは “ 舵をとる ” という意味です。この本には自分の研究室を持ったときの運営（ラボの舵取り）についてのノウハウやアドバイスが書かれています。研究室の長が持つべき資質や良い人間関係をつくるための秘訣、人事や事務仕事のこなし方から、本来の研究や学生の指導の仕方についてまで、多岐にわたってまとめられています。アメリカの事例ではありますが、新しく研究室を運営する方に、現在運営している方に、これから研究室に入ろうとする方にとって参考になる部分が多いと思います。

著者の前作「アット・ザ・ベンチ：バイオ研究完全指南」もご利用ください。

「いまの地球、ぼくらの未来：ずっと住みたい星だから」　枝廣淳子　著
（推薦）　精密素材工学科　（請求記号）519:E21

地球の温暖化、ゴミ問題など地球環境の悪化が伝えられる中で、リサイクル、エコ商品などがちょっとしたブームにもなっています。この本には、地球環境悪化の原因そして解決のための取り組みがわかりやすく解説されています。自分には何ができるだろう？と考えながら読むと、たくさんのアイデアが見つかると思います。

日本も江戸時代にはモノを貴重な資源として循環させるリサイクル社会であったということ。現在は、物があふれサービスもスピードも向上し、便利な社会になりましたが、少し留まって「スローライフ」を見直してみることも良いなあと感じました。かわいいイラスト満載で子供に分かるようにやさしく書かれた一冊です。

「心のパターン：言語の認知科学入門」　　Ray Jackendoff 著

（推薦）　機能機械学科　（請求記号）801:J11

赤ちゃんが言葉を習得する時、脳の中で何が起こっているのだろうか？と疑問に思ったことはありませんか？ある程度大人になってから外国語を学ぼうとするとハードルが高いことは簡単に想像できますが、子供は驚くほど早く外国語を習得してしまいます。“言語の認知科学”とは、このように人が言葉を話したり理解する時に脳の中で何が起こっているのかを明らかにする学問です。

人間は誰でも脳の中に“メンタル文法”つまり文法のパターンなるものを持っているそうです。それを使って新しい文章を次々と生み出すことができるというのです。誰に教わることもなく。それも意識せずにして。音楽を聴くときにも、言葉と同様のある一定のパターンを無意識に聴いているという解説があり、“メンタル文法”についてのイメージはしやすかったです。言語は、医学や工学など様々な分野に関わっていて、とても興味深い分野であることが分かりました。

「自分の仕事をつくる」　西村佳哲　著

（推薦）　感性工学科　（請求記号）366.29:N84

著者の肩書きは「働き方研究家」です。著者がいいモノをつくっている人たちを訪ね、彼らの働き方についてインタビューし、彼らの仕事場にある「大切な何か」を探ります。無駄がなく効率的な仕事を求められる昨今、時間や手間をかけた質の良い仕事が少なくなっているといいます。はっとさせられた言葉でした。

この本で紹介されている人のひとりに甲田幹夫さんがいます。今年、上田市に 2 号店をオープンした天然酵母パンの有名店「ルヴァン」の社長であり、パン職人であります。私たちはパンを食べて、これにかけられた時間や心を感じ、豊かな気持ちになる、これこそが彼らの仕事に込められた「大切な何か」につながっているものではないかと感じました。

-＊-＊-＊-

読んでみたい本はありましたか？

文責：武居

告知板

ここでは図書館からの最新の情報をお知らせしています。
次号発行までのお知らせは、繊維学部分館ホームページ
（http://www-lib.shinshu-u.ac.jp/seni/）をご覧ください。

⇒ 春季休業中の特別貸出について

春季休業にともない、**4月11日（月）**まで貸出期間を延長します。

返却期限日	2005年4月11日（月）	
貸出開始日	大学院生	2005年1月12日（水）
	学部4年生	
	学部2・3年生	2005年1月28日（金）
	研究生・聴講生	

＊ ただし、2005年3月に卒業予定の方は、**2月28日（月）**までとなります。
＊ **返却期限日は必ず守ってください！**

⇒ 春季休業中の開館日程について

春季休業にともない、平日は**17時で閉館**、土曜日は**休館**となります。

期間：2005年2月11日（金）～2005年4月10日（日）	
平日	9:00 ～17:00
土日祝日	休館

⇒ 卒業・修了予定のみなさまへ

★ 2005年3月に卒業予定の方の返却期限は、**2月28日（月）**です。
期限日までに必ず返却してください。

☆ 進学等で4月以降も繊維学部に在籍する場合は、貸出の際に係員にお申し出ください。
返却期限日を、**4月11日（月）**に変更します。

★ 図書館が閉まっている場合は、図書館入口のブックポストに投函してください。

分館日誌　（8月～12月）

8/23-8/31	蔵書点検		
9/21	学術情報・図書館委員会（第３回）	[メール審議]	
10/5	学術情報・図書館委員会（第４回）	[メール審議]	
10/14	図書委員会（第２回）		
11/16-11/19	平成 16 年度大学図書館職員講習会	[東京大学]	出席者－渡辺
12/16	図書委員会（第３回）		
12/20	学術情報・図書館委員会（第５回）	[SUNS]	出席者－三浦分館長 太田委員
12/27	学術情報・図書館委員会 学術情報専門部会（第２回）	[SUNS]	出席者－太田委員

編集後記

年末年始に帰省して高校時代の友人と会ってきましたが、最初の話題は地元の空港にお忍びで降り立った某韓流スターのことでした。どんなコマーシャルよりも地元のPRになったのではないかと思います。（残念ながら復路は杜の都方面から帰られたようですが）

さて今号は、５１号に引き続き太田先生にご寄稿いただきました。「針塚賞と毘沙門堂」という繊維学部に馴染みの深いテーマで、文中に登場する針塚先生の銅像を目にしたことがある方は大勢いらっしゃると思います。冬の運動不足解消も兼ねて、毘沙門堂にも足を運んでみてはいかがでしょうか。最後になりましたが、貴重なお時間を割いて原稿をお寄せくださった太田先生に、この場をお借りして心より御礼申し上げます。

次号は ４月発行の予定です。利用者の皆さんの声も Library に掲載したいと思いますので、ご意見・書評など何でもお寄せください。係員に直接、または E-mail での寄稿もお待ちしております。E-mail アドレスは、jfg0100@shinshu-u.ac.jp です。